

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

平均正答率は、4.5.6年ともにどの区分も目標値を上回ることができた。また、観点別の正答率でも4、5、6年ともにどの観点も目標値を上回る結果となった。昨年度の授業改善推進プランにある計算能力の向上を図るための指導にタブレットを取り入れたことや数学的な考え方の力を付けていくために既習事項を用いて自力解決する学習を実践した成果が出たと言える。

(2) 課題

- 数学的な見方・考え方ができるような操作活動を授業の中に取り入れていく。
- 主体的・対話的で深い学びができるような活動内容や指導の工夫をしていく。

手立てとして ・整数・小数・分数の数のしくみや四則計算については、繰り返し復習をして、基礎・基本の定着を図る。

・文章題での立式を正しくしたり、自分の考えを広げたりするために解き方を伝える場や友達と意見交流をする場を設ける。その際、ICT 機器の活用も積極的に行う。

・学習したことを生活の場面で活用できるように、他教科の関わりも考える。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第4学年時）
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第5学年時）

(2) 分析（観点別）

4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は目標値を上回っていたが、測定の領域では、目標値を下回っているものもあった。	全体の平均正答率は目標値を上回っていたが、文章問題を解くものは、目標値とあまり変わらない。前年度の正答率より下がったものもある。	全体の平均正答率は目標値を上回っていたが、活用の区分では目標値とほぼ変わらないものがある。

5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は目標値を上回っていたが、分数の問題で目標値を下回っているものもあった。	全体の平均正答率は目標値をかなり上回っていたが、活用の区分で正答率が低いものがある。	全体の平均正答率は目標値を上回っており、教科全体でも目標値をかなり上回っているため学習の状況は概ね良好といえる。

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は目標値	全体の平均正答率は目標値	全体の平均正答率は目標値

を上回っていたが、整数のな かま分け、分数と小数、小数 の計算の問題で、目標値を下 回っているものもあった。	をかなり上回っていたが、割 合を使って解く文章題では目 標値を下回っていた。	を上回っていたが、図形の問題 では目標値と変わらないもの が多い。
---	--	---

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○基礎・基本の定着を図るため、繰り上がり・繰り下がりの計算やかけ算を繰り返し行い、基礎計算力の向上を図る。</p> <p>○長さの単位や水のかさの単位を正しく使えるように、実物を使ったり、実際に測ってみたりする活動を取り入れる。</p>	<p>○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合ったり、ノートに説明や図を書かせたりする。</p>	<p>○学習したことを、生活の場面で活用できるように、実際に使われている物を見せ、学習したことを実感させる。他教科の中でも学習したことを活用する場面を設ける。</p>

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○基礎・基本の定着をしっかりと図っていくために、定期的に復習を行う。基礎計算力の向上を図り、特に小数・分数の四則計算を繰り返し復習させる。</p> <p>○長さや重さなどの学習で、身近なものを計測する活動を取り入れ、児童が量感を養うことができるようにする。また、単位換算を繰り返し復習し、確実に定着させる。</p>	<p>○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合わせたり、簡単な絵や図を描かせたりする。</p> <p>○解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT 機器の活用も行っていく。</p>	<p>○学習したことを、生活場面や親しみをもちやすい場面で活用させ、学習したことの意義を実感させる。</p> <p>○様々な解き方が考えられる課題を提示し、多面的にとらえ検討して、よりよいものを求めて粘り強く考えさせる。</p> <p>○単元末に学習を振り返る活動を行い、できるようになったことを価値付けたり、今後の生活や学習に活用できることを知らせたりする。</p>

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>○基礎・基本の定着を図るために、繰り返し既習事項の復習を行う。また、一般化することで整数だけでなく、小数・分数の場合にも計算の仕組みや方法が活用できることを理解させる。</p>	<p>○必要な情報を整理し、文章題での立式をきちんとできるようにする。友達と意見交換をする中で、自分の考えを深め広げるようにさせる。</p> <p>○割合や単位量の間係を捉える問題を苦手としている。式の意味を、数直線や図で表して間係を説明できるようにする。</p> <p>○解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT 機器の活用も行っていく。</p>	<p>○学習したことを、実際の生活の場面で応用できるようにする。</p> <p>○1つの方法だけでなく、様々な解き方を考えさせ、考えて解く楽しみを味わわせる。</p>
---	---	---